



国立女性教育会館 女性教育情報センター テーマ別図書案内

まず
本、あり▽。

-?を！に変える本との出会いを見つけるマガジン-
///Vol.30///

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
～妊娠・出産における女性の健康～



リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

リプロダクティブ・ヘルス

妊娠したい人、妊娠したくない人、産む・産まないに興味も関心もない人、アセクシャルな人(無性愛、非性愛の人)問わず、心身ともに満たされ健康にいられること

リプロダクティブ・ライツ

産むか産まないか、いつ・何人子どもを持つかを自分で決める権利。妊娠、出産、中絶について十分な情報を得られ、「生殖」に関するすべてのことを自分で決められる権利

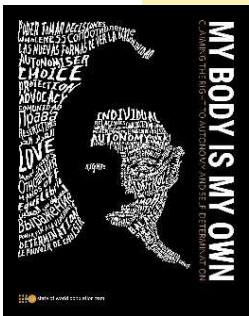
(引用)ジョイセフ「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(SRHR: 性と生殖に関する健康と権利)とは」
<https://www.joicfp.or.jp/jpn/know/advocacy/rh/>

リプロダクティブ・ヘルス／ライツは、1994年にエジプト・カイロで開催された国際人口開発会議において提唱されました。「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、女性の生涯を通じた健康にとって重要なものです。



『私のからだは私のもの：からだの自己決定権を求めて (世界人口白書；2021)』

United Nations Population Fund [2021]



本白書は、国連の報告書として初めて「からだの自己決定権」に焦点を当てたものです。「暴力や抑圧を恐れることなく、自分のからだと将来に関する選択をする力と主体性を持つ権利」について、各国のデータや取り組みから現状を知ることができます。



日本語概要版、英語完全版が国連人口基金駐日事務局HPからダウンロードできます
<https://tokyo.unfpa.org/ja/SWOP2021>

エスディーゼーズ
SDGs

5 ジェンダー平等を
実現しよう



2015年9月開催の「国連持続可能な開発サミット」にてSDGs(持続可能な開発目標)が採択されました。国連に加盟するすべての国は、2030年までに目標達成のために力を尽くしています。SDGsは、17の目標と169のターゲットからなり、目標5は「ジェンダー平等を実現しよう」です。



ターゲット5.6がリプロダクティブ・ヘルツ/ライツに関係しています

ターゲット5.6

国際人口開発会議(ICPD)の行動計画および北京行動綱領、ならびにこれらの検討会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康および権利への普遍的アクセスを確保する。

『ART大国日本から考えるリプロダクティブ・ヘルス/ライツと女性』

河内優子著 文眞堂 2022



日本は体外受精などのART(生殖補助医療)実施件数が世界の中でも多い国です。日本におけるARTの現状と課題、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念や統計データ、「産む権利」と「産まない権利」などについて書かれています。日本の状況、国際比較、歴史的背景からリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて知ることができます。

『小さいのちのドアを開けて：思いがけない妊娠をめぐる6人の選択』

永原郁子, 西尾和子著；のだますみ漫画 いのちのことば社<フォレストブックス> 2021



公益社団法人小さいのちのドアは、思いがけない妊娠や出産育児に悩む女性の相談を24時間無料で受け付けています。本書では、2019年から3年間で2万件以上寄せられた相談の中から、中学生の妊娠、不倫妊娠、風俗妊娠など予期せぬ妊娠の6つの事例をマンガとエピソードエッセイで紹介。コラムでは、妊娠の仕組みや妊産婦支援、特別養子縁組などについて解説されています。



公益社団法人小さいのちのドア <https://door.or.jp>

『妊娠したら読んでおきたい出生前診断の本：出生前診断を“正しく知る”ために』

大竹明, 亀井良政, 町田早苗著 ライフサイエンス出版 2020



「妊娠早期に先天異常の診断を行う」出生前診断の基礎知識、出生前診断を経験した家族のエピソード、母子感染を防ぐ具体策などが掲載されています。「安全な妊娠・出産のために、さまざまな情報をあらかじめ全体として評価しておく」出生前診断について、知ることができます。

もっと知りたい方へ

- 内閣府男女共同参画局「女性応援ポータルサイト 妊娠・出産の支援」
<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/ouen/home/baby>
 女性向けだけでなく、男性や経営者・管理部門、地方自治体や行政機関向けの支援情報がまとめられています



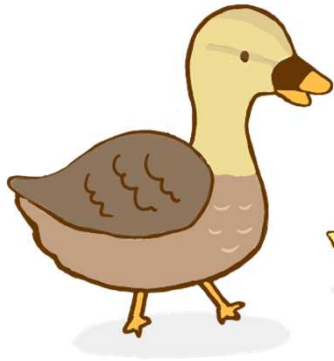
- 厚生労働省・一般財団法人 女性労働協会
 「妊娠・出産をサポートする女性にやさしい職場づくりナビ」
<https://www.bosei-navi.mhlw.go.jp>
 職場における母性健康管理を推進するために役立つ情報を提供しているサイト





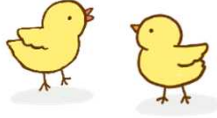
出産

2022年に生まれた子どもの数は79万9,728人で、1899年の人口動態統計開始以来初めて80万人を下回り、過去最少を更新したよ。



(参考)厚生労働省「人口動態統計速報(令和4年12月分)」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2022/12.html>



『「女の痛み」はなぜ無視されるのか?』

アヌシェイ・フセイン著；堀越英美訳 晶文社 2022



本書出版のきっかけは、バングラデシュ出身の著者がアメリカでの出産時に痛み止めが効いていないと訴えても無視され死にかけたトラウマ経験でした。データや事例など様々な調査から女性(特に有色人種)の痛みが医療現場で軽んじられる問題を明らかにしています。「自分の体の声の一番の代弁者」として声を上げる重要性を感じる一冊です。

『ママブルーを乗り越えるために：産前産後のうつと不安の理解とケア』

ショシャナ・S.ベネット, ペック・インドマン著；小川眞, 小川朝子訳 星和書店 2021



妊娠中から産後一年の間に主にホルモン変化の影響によって引き起こされる妊産婦の気分障害や不安障害について、症状・治療法や体験について紹介されています。妊産婦だけではなく、パートナー、家族・友人、医療従事者それぞれに向けた対策法やアドバイスが具体的に解説されています。

『女性たちで子を産み育てるといふこと：精子提供による家族づくり』

牟田和恵, 岡野八代, 丸山里美著 白澤社 2021



インタビュー調査を基に、精子ドナーを得て出産子育てをする女性カップルの経路を紹介しています。日本、フランス、イタリア、台湾、韓国など様々な国の家族づくりを知ることができます。多様な家族の可能性、性的指向や性別にかかわらず、誰もが尊厳をもって豊かな人間関係を紡ぎながら生きていく社会に向けた考察がされています。



『近未来の<子づくり>を考える：不妊治療のゆくえ』

久具宏司著 春秋社 2021



2022年4月から不妊治療が保険の適用対象となりました。本書では、生殖医療の現状と課題が紹介されています。子どもを持つ方法として3人の女性のシュミレーション(卵子凍結保存、卵子提供、自然妊娠)を挙げて、それぞれの問題点を探り、生殖技術が一般化することで子づくりの変容が社会にもたらす変革を予測しています。

『不育症学級：人事を尽くして天命を待て(改訂3版)』

杉俊隆著 金原出版 2019



妊娠しても2回以上の流・死産を繰り返す不育症。不育症診療の第一人者の著者が1996年から始めた患者向け説明会「不育症学級」を基に、不育症の基礎知識から具体的な治療法、検査について解説されています。

『産声のない天使たち』

深沢友紀著 朝日新聞出版 2018



約50人に1人の赤ちゃんが死産しているという現実。死産や流産を経験した家族取材したルポルタージュです。グリーンケアやNICU(新生児集中治療室)の現場など死別を取り巻く現状について知ることができる一冊です。

🖥️ 詳しく知りたい方へ ～厚生労働省が提供する情報～

● 「不妊治療に関する取組」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/funin-01.html



不妊治療の保険適用や不妊症に悩む夫婦への支援などの情報がまとめられています

● 「みんなで知ろう、不妊症・不育症のこと」

<https://ninkatsu-hiroba.mhlw.go.jp>



不妊症・不育症についての基本情報をマンガや動画でわかりやすく解説

『日本の中絶』

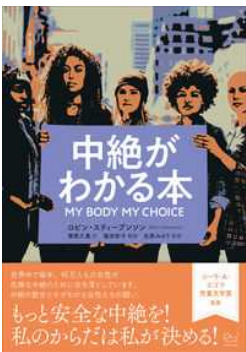
塚原久美著 筑摩書房 2022



年間14万件あまり行われている日本の中絶。なぜ中絶はタブー視されるのか、諸外国より遅れている日本の中絶医療・避妊方法の問題点、体験としての中絶などがリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から述べられています。歴史的背景から日本の中絶について現在も残る問題について考えるきっかけとなる一冊です。


『中絶がわかる本：MY BODY MY CHOICE』

ロビン・スティーブソン著；塚原久美訳；福田和子解説 アジュマ 2022



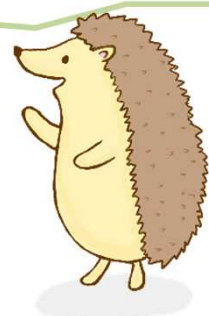
世界における安全な中絶を求める女性たちの運動、アクティビストの取り組みなど、「女性の権利」としての中絶について、歴史から現在行われている活動まで幅広く掲載されています。

本書は2020年にシーラ・A・エゴフ児童文学賞受賞しており、ティーンエイジャー向けの性教育と人権の本としておすすめです。イラストや写真が多く、用語解説も充実しています。

 関連情報

飲む中絶薬「女性に選択肢」厚労省部会が了承、意見公募
緊急対応・価格に懸念
(日本経済新聞 2023.02.16)

女性が健康を守るために、安心して、適切かつ安全に、緊急避妊薬(通称 アフターピル)にアクセスできる社会の実現を目指した市民運動が行われています

緊急避妊薬を薬局でプロジェクト <https://kinkyuhinin.jp>

女性・ジェンダー関連情報を調べるのに最適！



国立女性教育会館 文献情報データベース

https://winet2.nwec.go.jp/bunken/opac_search/



文献情報データベースでできること

- ①女性教育情報センターの豊富な所蔵資料が検索できます
図書・地方行政資料14万冊、雑誌4千タイトル、
新聞記事55万件、和雑誌記事7万6千件
- ②資料には、登録時に関連キーワードが付与されているため、
幅広い、効率的な検索ができます

新着資料アラートサービス

関心のある「キーワード」や「著者」などをあらかじめ登録すると、
その条件にあった女性教育情報センターの新着資料をEメールでお知らせ！

最新情報を受け取るには、新聞記事を登録するのが
オススメです！



新聞記事は全国紙・地方紙（北海道～沖縄県）合わせて**50紙**

【詳細はこちらから】



<https://www.nwec.jp/database/new.html>



国立女性教育会館が提供するサイト

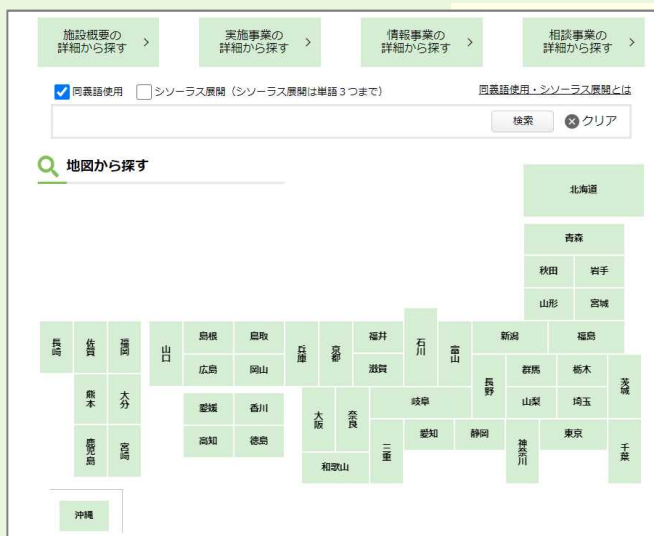


「女性情報ナビゲーション」

<https://winet.nwec.go.jp/navi>



心とからだの健康、子育て支援など、
役立つ情報サイトをまとめたwebリンク集です



「女性関連施設データベース」

<https://winet.nwec.go.jp/sisetu>



全国の女性センター・男女共同参画センターの
施設概要、実施している事業について検索する
ことができます

相談事業の分野で「育児・子育て
相談」、「女性の体やメンタルヘルス
に関する相談」から検索できます



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ～妊娠・出産における女性の健康～

女性教育情報センターテーマ展示（4～6月）

<https://www.nwec.go.jp/event/center/health.html>



本、あり。は国立女性教育会館リポジトリからダウンロードできます

<http://id.nii.ac.jp/1243/00019025>



編集・発行: 独立行政法人国立女性教育会館 情報課

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL:0493-62-6195

URL:<https://www.nwec.go.jp/facility/center.html>



発行: 2023年4月